

魂は死後も生きる

野口幹夫

12月のKozoomサロンで、中西卓さんが、ザ・フォーク・クルセダーズの『帰って来たヨッパライ』の「おらは死んじまっただ」の歌の感想を求められた。私はあの会の終わりにこれを取り上げて、人間は死んでも、魂はこの歌のように天国で生きている、（ただ魂は酒を飲まないで、天国でも酔っぱらうことはない。）たまたま今年はこの事柄を良く勉強した年だったといったことを話した。

この件、改めて少し詳しくご紹介させてください。

1) 人間の魂について

進化の頂点に立った人間は魂＝精神を得ました。これによって言葉を話すことができ、文化を生み、科学技術を作り出しました。

現代医学や生理科学は、この魂＝精神＝長期記憶を、肉体の中でどこにあるのか探したのですが見つかりません。存在するのに、どうしても見つからないのは、それがダークマターダークエネルギーでできているからと推定するしかありません。

それはダークマター量子クラウドが高度に組織化されたもので、その活動エネルギーは無限に近く存在するダークエネルギーによって補給されているものと推定します。

それは肉体が3次元の存在なのに、5次元の存在です。重力次元と時間次元を自由に動きまわります。生きている間でも我々の精神は、過去や未来また世界のどこにでも想像を巡らすことが

できることから推定できます。

この不思議な存在である魂は、進化の過程ではその前段的なものはどの生物にもなく、人間になって突然胚胎したものです。進化の法則とははずれて、突然、宇宙意思なる神の意志によって与えられたものというしかありません。だからそれは内なる神の神殿かもしれません。ただし生まれる時は空っぽです。成人して人生経験を積んで、たまたま神的存在を意識できる人は、それを迎え入れることができる神殿です。

2) 魂の分離

魂は先ほど言いましたように、肉体とは異質の物質からできています。そして恐れらく脳のある部分につながって、肉体を自由に支配しているのです。自動車事故などのショックで外れることもあります。クラーク・エリオット「脳はすごい ある人工知能研究者の脳損傷体験記」という本があります。

特異な才能のある人は、生きているうちにそれを宇宙空間に解き放つことができるようです。宮沢賢治はその一人です。その体験を二つの童話に書いて発表しました。「インドラの網」と『銀河鉄道の夜』です、

『銀河鉄道の夜』はお読みになられたでしょう。ジョバンニは広場に眠り込んだとき、ある列車に乗り込み宇宙に飛び出します。乗り込んでくる客の一人は友人のカンパネルラ、ジョバンニは知りませんが、カンパネルラは溺死したばかりの時です。学生と子供二人が乗り込みます。彼らは豪華客船タイタニックの沈没で亡くなった乗客たちでした。全て死者たちの

天国への旅だったのです。それとは気づかずジョバンニは目を覚まします。そしてカンパネルラの死を知るのです。

宮沢賢治のこの例のように生きている間でも、魂の体外離脱をさせることができるのですがそれは賢治のように例外的な能力を持った人だから可能なのです。しかしそれが一般の人間にもできることを科学的実験で示したのが、アメリカ　ヴァージニア州シャーロットビルにあるモンロー応用科学研究所です。志願してきた普通の人にヘミシングとなづけられた特殊なイアホンを装着して、眠ると眠りながらも意識があるという明晰夢という特異な状態になり、しばらくして魂が体外離脱し宇宙に飛び出します。「魂の体外旅行」という本が日本でも日本教文社から刊行されています。

3) 死後の魂の離脱

人間は誰でも死を迎えます。その時こそ誰でもこの魂の体外離脱をするかどうか直面します。死の時に望めば魂は死んだ身体から離脱します。5次元の存在として宇宙空間に飛び出します。

ある場合には、一度死んだ身体がよみがえる時があるのです。いったん飛び出した魂は急いで元の肉体に戻ります。いくばくかの時間　魂は空間の飛び出し、自分の肉体を見、悲しみに暮れている周りの人々とみたりします。そのことは忘れられない記憶として残ります。そんな特別な経験をした人々の証言を立花隆が収集し「臨死体験」としてまとめました。

普通の人には離れた魂はそのまま宇宙空間すなわち天国に向かいます。

ところが不思議なことがあるのです、それを拒否することができるのです。苦勞した人生「その先のことは知らない」と拒絶する人は魂の離脱はないのです。離脱にはそれなりの踏ん張りが必要です。それはそれを心から望むことです。浄土真宗は死の時に「南無阿弥陀仏」と唱えよと言えば西方浄土に成仏できると説きました。宗教の存在は必ずしも必要ありません、ただ天国に行きたいと神に祈る心だけが必要です。

4) 神の存在と天国の姿

神の存在は人間には理解できません。この宇宙の創造をしたというだけで、そのスケールの壮大さは、人間の想像力をはるかに越えます。スケールを太陽系に絞っても銀河のかなり中心部で生まれた太陽系が新星爆発で宇宙線の荒れ狂う場所から、時間をかけて軌道を変え外側に移動し、安全ゾーンに入って。惑星である地球に生命を生み、人間まで到達させたということが、宇宙観測衛星のデータでわかりました。そのような宇宙意思なら何とか近い存在として、想像でできます。宇宙意思はそこまでして人間を相棒の一つとしたかったので、最後に神の贈り物である精神を与えこんだようです。

そしてその魂が集まる天国の姿は、19世紀の半ばから20世紀の半ばまでの世界を覆ったスピリチュアル全盛の時代、天国の姿についてのいくつかの伝承がもたらされました。

「シルバーバーチのスピリチュアルメッセージ」などいくつかの書物があるが、その内容は宇宙の大霊は人間を愛しておられる。人間も神を愛し、互に愛し合いなさい、人の役に立つことをしなさい。人間は死におよんでその靈魂は靈界に行く、そこは新たな修練があり成長

とともにより光かがやく高層へと導かれる。そして人間界への働きかけをしていくなどの霊界の姿 霊界への移行の筋道などが語られています。

以上に述べたことの詳細は高津 5 期 HP 気軽に一言に掲載したのでご参照ください

「宇宙人宮沢賢治」

<https://kozu5.my.coocan.jp/NoguchiMiyazawakennji.pdf>

「ベルグソン哲学の現代までの延長」

<https://kozu5.my.coocan.jp/BergsonGendaiEncho.pdf>